2．中心市街地の位置及び区域

［1］位置

位置設定の考え方
上田の市街地は、天正 11 年（1583 年）に真田昌幸が築城した上田城の城下町として、また、北国街道の宿場町として形成されてきた。現在でも数多く残されている文化財や歴史的建造物などが当時の面影を残し、現在の中心市街地の骨格となっている。 大正時代以降も、養蚕業を中心に発展した上田地方の中心都市として、また、30 万人以上の商圏人口を抱えた東信州の中核都市として発展してきた地域である。 近年の車中心の社会に進展による郊外居住化、生活圏域の広域化などにより、市街地の中心性、求心力は、以前に比べ小さくなってきてはいるものの、官公庁、文化施設、歴史的資源などが狭い範囲に集積し、徒歩圏域の賑わい形成が可能な市街地である。 今後の高齢社会の進展などを踏まえ、車に頼らず生活できる市街地の形成を目指し、上田駅を中心とする地域を中心市街地とする。

（位置図）

［２］区域

区域設定の考え方

(1) 中心市街地の境界となる部分

中心市街地活性化法第２条各号の要件を満たし、多様な都市機能の集約により上田市全域に波及効果を及ぼす活性化を実現していく中心市街地の区域を、以下の考え方に基づいて設定する。

○既存の都市機能等をもとに、様々な要素を構成できる区域
○車を使わずに生活しやすい徒歩圏域を形成できる半径およそ 1㎞ 圏域の区域
○中心市街地内外の連携を強化するに必要な区域（幹線道路を境界とする）

(2) 中心市街地の境界となる部分

・北の境界は、旧北国街道（中央５丁目、中央４丁目の一部）
・南及び東の境界は、千曲川、信州大学繊維学部、上田合同庁舎、中央公民館
・西の境界は、常磐城１丁目、天神３丁目一部、
・町丁字界としては、中央１～６丁目、二の丸、大手１～２丁目、天神１～４丁目、常田１～２丁目

(3) 区域の面積

・約 193ha

（区域図）

［3］中心市街地要件に適合していることの説明

要　件	説　明
第１号要件 当該市街地に、相当数の小売商業者が集積し、及び都市機能が相当程度集積しており、その存在している市町村の中心としての役割を果たしている市街地であること	中心市街地は、上田市の可住地面積約16,545haの約2.3%に対し、以下の集積があり、いずれも上田市内で最も高い集積度合いとなっている。 ○各種事業所が集積し、金融・保険業が特に集積 ・市内総事業所の約17%が集積し、市内総従業員の約15%が働いている（平成18年事業所・企業統計）。 ・金融・保険業については、市内事業所の約28%が集積し、市内関連従業員の約38%が働いている経済の中心地である（平成18年事業所・企業統計）。

表１　各種事業所の状況

	中心市街地（A）	新上田市（B）	対市割合（A/B）
事業所数（全）	1,415事業所	8,472事業所	16.7%
従業者数（全）	11,477人	77,843人	14.7%
事業所数（金融・保険業）	35事業所	116事業所	27.6%
従業者数（金融・保険業）	537人	1,427人	37.6%

資料：平成18年事業所・企業統計（上田市分）

○小売業が集積
・小売業については、市内事業所（店舗）の約18%が集積している商業の中心地である（平成18年事業所・企業統計）。
・小売業の年間販売額については、中心市街地の商店街のみで、市内の約7.3%を占めている（平成19年商業統計）。

表２　卸・小売業の事業所の状況

	中心市街地（A）	新上田市（B）	対市割合（A/B）
事業所数	384事業所	2,091事業所	18.4%

資料：平成18年事業所・企業統計（上田市分）

表３　小売商業の状況

	中心市街地商店街（A）	新上田市（B）	対市割合（A/B）
店舗数	161店	1,558店	10.3%
従業者数	909人	11,257人	8.0%
年間販売額	133億円	1,835億円	7.3%

資料：平成19年商業統計（上田市分）

○行政、文化施設などの公共公益施設が立地
・市役所、市民会館などの主要な都市施設が立地している。

表４　中心市街地に立地する公共・公益施設

分類		施設名
公共施設	国の施設	上田労働総合庁舎
	県の施設	上田駅前交番、染谷交番
	市の施設	市役所（本庁舎、やぐら下庁舎）市民会館、上田城跡公園、市立博物館、山本鼎記念館、池波正太郎真田太平記館、ふれあい福祉センター、市営球場、上田情報ライブラリー
	医療・福祉施設	病院：上田病院、柳澤病院、安藤病院 介護保険施設等：上田市社会福祉協議会（介護相談センター、介護サービスセンター）、中央地域包括支援センター、上田病院、柳澤病院、うえだ敬老園、うえだ南敬老園、やまぎわ薬局、上田市中央デイサービスセンター、宅老所もくれん、南天神の家 保育園等：甘露保育園、聖ミカエル保育園、常田保育園、東部保育園、きっずうえだみなみ
公益施設	教育関係施設	幼稚園：梅花幼稚園、たちばな幼稚園、聖マリア幼稚園 小学校（こども館併設）：清明小学校 中学校：第二中学校 高等学校：県立上田高等学校（全日、定時） 各種学校・専門学校： 上田市医師会附属看護専門学院、上田医療衛生専門学校、上田情報ビジネス専門学校、綿良学園上田総合文化専門学校、長野外語カレッジ、駿台信州予備校
	その他の公益的施設	銀行、郵便局、上田商工会議所、宿泊者数の大きなビジネスホテル・旅館

資料：商工課調べ

図：中心市街地に立地する公共・公益施設

資料：商工課調べ

以上のとおり中心市街地は、上田市の可住地面積の 3%に満たない範囲に相当数の小売商業、各種事業所、公共公益施設等が密度高く集積しており、様々な都市活動が展開されている。

また、三つの鉄道（北陸新幹線、しなの鉄道、上田電鉄別所線）と、バスの乗換ポイントである上田駅があることから、地域の商圏、通勤及び通学圏の中心都市である上田市の中でも、さらに中心的な役割を果たしている地域である。

第２号要件 当該市街地の土地利用及び商業活動の状況等からみて、機能的な都市活動の確保又は経済活力の維持に支障を生じ、又は生ずるおそれがあると認められる市街地であること	人口、商業機能や業務機能の空洞化から、機能的な都市活動の確保又は経済活力の維持に支障を生じており、上田市全体の経済活力の停滞につながるおそれがある。 ○低未利用地の土地が増加 ・低未利用地の土地活用が図られた場所（※）もあるものの、駐車場としての利用の増加がみられ、平成 18 年には平成 11 年に比べ約 9,000 ㎡の駐車場が増えており（約 4%増加）、それらの駐車場は中心市街地全体に虫食い状に拡散している。 ※）主な低未利用土地の活用予定 ①写真美術館用地⇒街なか駐車場 ②旧一冨士跡地　⇒大手門地区（緑地広場、商業等施設）整備 ③ＪＴ上田工場跡地⇒交流･文化施設、商業施設、大規模分譲住宅地 ④旧第一中学校跡地⇒総合保健センター、商業施設 図：低未利用地の状況　　資料：住宅地図 ○中心市街地の事業所集積が低下 ・ 中心市街地の事業所数が、平成 8 年から平成 18 年の 5 年間で約 22%減少したのに対し、市全体の事業所数は約 13%の減少に留まっている。また従業者数は、中心市街地では約 15%減少したのに対し、市全体では約 6%の減少に留まっている。このことから、事業所数、従業者数において中心市街地の占める割合はいずれも落ち込んでいる。

表５　事業所数、従業者数の状況

		中心市街地（A）	新上田市（B）	対市割合（A/B）
平成８年	事業所数	1,825 事業所	9,749 事業所	18.7%
	従業者数	13,432 人	83,210 人	16.1%
平成18年	事業所数	1,415 事業所	8,472 事業所	16.7%
	従業者数	11,477 人	77,843 人	14.7%

○中心市街地の小売商業集積が低下

・中心市街地に位置する商店街の小売年間商品販売額は、平成 19 年には平成６年のおよそ 1/3 の額となっている。上田市全体の小売年間商品販売額も減少しているが中心市街地の落ち込みが大きく、販売額における中心市街地のシェアは約 17%から約 7.3%に落ち込んでいる。

表６　小売商業の店舗数、従業者数、年間販売額

		中心市街地商店街（A）	新上田市（B）	対市割合（A/B）
平成６年	店舗数	248 店	1,955 店	12.7%
	従業者数	1,506 人	10,783 人	14.0%
	販売額	355 億円	2,117 億円	16.8%
平成 19 年	店舗数	161 店	1,558 店	10.3%
	従業者数	909 人	11,257 人	8.0%
	販売額	133 億円	1,835 億円	7.3%

資料：商業統計

○中心商店街の歩行者通行量は減少し、人の集積が低下

・休日の中心商店街歩行者通行量は、平成 11 年から平成 20 年の間で約 40%減少しており、中心市街地の重要な機能である中心商店街に集まる人が減っている。

歩行者通行量の推移(資料：商店街通行量調査)

第３号要件 　当該市街地における都市機能の増進及び経済活力の向上と総合的かつ一体的に推進することが、当該市街地の存在する市町村及びその周辺の地域の発展にとって有効かつ適切であると認められること	中心市街地の活性化は、上田市及び東信州の発展にとって有効かつ適切であると認められる。 ○上田市において経済的、社会的に中心的な役割を担う地域 ・上田市は東信州の中核的な都市として、商業の中心、就業の中心となる重要な役割を担っている。その上田市において中心市街地は、商業、事業所の高い集積がある地域であり、中心市街地の活性化は、上田市及び東信州の発展に有効かつ適切である。 ○上田市は東信州の商圏、通勤・通学圏の中心都市 ・上田市は、５市町村（上田市、青木村、長和町、東御市、坂城町、北御牧村）によって形成される一次商圏の中心都市であり、商圏人口は市の人口の約1.5倍の約26万人である。 図　上田市の商圏 資料：平成 18 年長野県商圏調査 ・上田市は、東信州の中心的な市であり、通勤・通学の流入人口 15,729 人に対し、流出人口は 11,741 人と、流入人口が超過している（平成 17 年国勢調査）。 図　上田市を中心とした通勤・通学の状況 資料：平成 17 年国勢調査

	○協働によるまちづくりとしての中心市街地の活性化 ・平成 18 年 3 月に上田市、丸子町、真田町、武石村が合併し、人口 16 万 4 千人を擁する新上田市が誕生した。新たな総合計画において地域内分権を進めるため、地域協議会の充実、地域自治センター機能の見直しや施設の整備・建設を進め、また、行政の説明責任を果たすとともに、新たな広報・広聴制度の確立など環境の整備をしながら、市民協働のまちづくりを推進することとしている。 ・中心市街地は、その中でも市役所本庁舎が立地し、地域経営の要となる地域である。 ○観光によって上田市全体の活力向上につなげられる地域 ・中心市街地には、上田城跡、柳町通りの街並み、池波正太郎真田太平記館など、歴史的な観光資源が立地している。 ・特に上田城及び上田城跡公園は、上田駅からも近い上、「日本 100 名城」、「日本の歴史公園百選」に選ばれ、上田市がリーディング産業としている観光事業における大きな資源の一つである。郊外も含めた観光の起点と位置付けて事業を展開していくことが必要である。 ○「上田地域30分(サンマル)交通圏」構想を展開する中心地 ・上田市では、上田・東御・小県圏域のどこからでも各高速インターや新幹線上田駅へ 30 分以内で結ばれる交通圏域を形成し、市民生活の利便性向上や経済活動の展開を図ることを進めている。 ・中心市街地では駅環状道路、都心環状道路とともに、市街地の外周部を走る市街地環状道路、都市環状道路によって、３社の鉄道路線が結節する上田駅を中心とした「上田地域３０分(サンマル)交通圏」を形成することとしており、様々な都市活動の集積・交流が促進される中心市街地において活性化を図ることは、その効果は上田市及び周辺地区の地域の発展に及ぶと考えられる。

［１］中心市街地活性化の目標

（１）中心市街地活性化の目標

本計画では、中心市街地活性化の基本方針(Ｐ２９)を踏まえて、以下の３つを中心市街地活性化の数値指標として設定する。

目標１　居住満足度の高い安全･安心な中心市街地の形成を進める。(生活快適都市)
「中心市街地の居住人口」

目標２　市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る。（域内交流）
「中心市街地の歩行者通行量」

＜参考数値目標＞

新生「上田市」の総合的なブランド力を高める。（域外交流）」
「中心市街地にある上田城跡公園周辺施設利用者数」

（２）計画期間の考え方

本計画の計画期間は、平成２２年３月から始まり、主要な事業が完了し事業実施の効果が現れると期待される平成２７年３月までの５年間とする。

（３）数値目標設定の考え方

本計画で設定した中心市街地活性化の目標の達成状況を的確に把握できるよう、定期的なフォローアップに使用できる指標とすることを前提に、数値目標を設定し、目標の達成状況を管理する。

［２］数値目標指標の設定の考え方

目標１　居住満足度の高い安全・安心な中心市街地の形成を進める。（生活快適都市）
「中心市街地の居住人口」

目標設定の理由

①中心市街地の活力を維持していくためには定住人口の維持は欠かせない。
②客観的な指標である。
③住民基本台帳によって定期的にフォローアップが可能な指標である。

目標数値設定の考え方

①天神三丁目住宅供給事業住宅供給に基づく予測
②民間事業マンション建設住宅供給供給に基づく予測
③大手門地区中心市街地共同住宅整備事業住宅供給に基づく予測

中心市街地の人口は平成 20 年 9 月末現在で 6,897 人、世帯数は 3,225 世帯であり、上田市の人口の約 4.2%、世帯の約 5.0%の世帯数が集積している地域である。(P6・7)

中心市街地以外うち旧上田市区域は横ばいであるのに対し、中心市街地の人口は減少を続ける一方である。

しかし、今後、中心市街地の区域では、大規模な住宅地の開発計画が進んでいるほか、民間資本によるマンションの予定があり、こうしたことから中心市街地の居住人口を概ね現状維持の 7,059 人を数値目標とする。

具体的な数値目標

(１)目標：居住人口（人）

(２)関連事業及び目標数値の根拠

【関連事業】

（直接的効果）　天神三丁目住宅供給事業
民間資本によるマンション建設（2 件）
大手門地区中心市街地共同住宅整備事業

（間接的効果）　上田橋中島線道路整備事業、櫓下泉平線道路整備事業、天神町新屋線道路整備事業、上田藩主屋敷跡遊歩道整備事業、材木町線道路整備事業、都市計画道路中常田新町線道路整備事業、交流・文化施設整備事業、総合保健センター整備事業、交流サロン整備事業、定期野菜市事業、コミュニティバス運行事業、上田駅前パトロール等

【目標数値の根拠】

①　近年のトレンド（趨勢）による減少　　6，369 人
（※１次変数の線形回帰モデルを使用し予測計算）

○　上田市全体の人口が、この 10 年ほぼ横ばいの状況にあるのに対し、中心市街地（上田地区）の人口は、平成 7 年から 10 年間で約 11%の減少（Ｐ６参照）となっている。

○　また、全国的な人口減少社会の動向と同様に、上田市の人口も減少に転じており、このままでは中心市街地（上田地区）の人口減少はさらに加速するものと考えられる。

② 天神三丁目住宅供給事業による増加　295 人

○　天神三丁目土地区画整理事業地区において住宅供給を進める事業で、上田駅からの徒歩圏に良質な住宅を供給する事業であり、居住満足度の高い住宅 130 戸の供給が計画されている（ただし販売予想は、地方経済の停滞を考慮し９割とする）。

○　本事業により 117 戸の住宅が新たに供給されるため、旧上田市の世帯平均人数 2.52 人（平成 20 年 10 月）を乗じ 295 人の増加を見込む。

③ 民間事業マンション建設による増加　249 人

○　今後、中心市街地で２件のマンション建設される。（完売）
　２棟 99 戸程度の集合住宅が供給される。このことから、中心市街地の世帯平均人数 2.52 人を乗じて、249 人の増加を見込んでいる。

④ 大手門地区中心市街地共同住宅整備事業による増加　146 人

○　賑わいの拠点となる中央二丁目交差点にある「一冨士」跡地の隣接地でマンションが建設され住宅 65 戸の供給が計画されている（ただし販売予想は、地方経済の停滞を考慮し９割とする）。

○　本事業により 58 戸の住宅が新たに供給されるため、旧上田市の世帯平均人数 2.52 人を乗じ 146 人の増加を見込む。

①から④により、平成 26 年度における居住人口の目標を 7,059 人とする。

<現状からの推定>

図34 中心市街地の居住人口推計

（集合住宅建設に伴う増加）	戸数	販売戸数（見込含む）	平均世帯人員（仮定）	増加見込数
天神三丁目住宅供給事業	130×0.9	117	2.52	295 人
中央四丁目マンション（完売）	49	49	2.52	123 人
中央三丁目マンション（完売）	50	50	2.52	126 人
大手門地区中心市街地共同住宅整備事業	65×0.9	58	2.52	146 人
合　　計				690 人

※　空地の土地活用による住宅供給に基づく予測、建築動向に基づく予測は見通しがつかないため実施しない。

【フォローアップ】

「居住満足度の高い市街地の形成を進める。（生活快適都市）」に関する目標

：「中心市街地の居住人口」

毎年 10 月 1 日現在の居住人口を住民基本台帳から把握するとともに事業の進捗状況について毎年度確認し、必要に応じて事業を促進するための措置を講じる。

計画期間の中間年度にあたる平成 24 年度には数値目標の達成状況を検証し、必要に応じて目標達成に向けた改善措置を講じていく。また、計画期間の最終年度終了後に再度検証を行う。

目標２　市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る。（域内交流）
「中心市街地の歩行者通行量」

目標設定の理由

①市域内の交流を活発にし、来街者の増加を図ることは中心市街地活性化には不可欠な要素である。

②客観的な指標である。

③歩行者通行量については、平成 19 年度から定期的（毎年 10 月 15 日（休日の場合は直前の平日））に上田商工会議所で調査をしておりフォローアップしやすい指標である。

目標数値設定の考え方

①大手門地区中心市街地共同住宅整備事業、天神三丁目住宅供給事業及び民間資本による中央三丁目・四丁目共同住宅供給事業（マンション建設）による予測

②天神三丁目土地区画整理事業地区の商業施設設置による予測

③大手門地区商業等施設整備事業による予測

④街なか駐車場整備により観光客及び市街地買物者増による予測

⑤総合保健センター整備（旧第一中学校跡地）による通行者予測

⑥赤ちゃんステーション整備により中心市街地来街者予測

⑦テナント出店支援制度※活用による出店による来街者予測

具体的な数値目標

（１）目標：平日（一日）歩行者通行量（人／日）

（２）関連事業及び目標数値の根拠

【関連事業】

（直接的効果）・大手門地区中心市街地共同住宅整備事業
・天神三丁目住宅供給事業
・天神三丁目土地区画整理事業地区の商業施設設置事業
・大手門地区商業等施設整備事業・街なか駐車場整備事業
・総合保健センター整備事業、
・海野町会館運営・改修整備事業、
・赤ちゃんステーション設置推進事業・テナント出店支援事業
・まちなかレンタサイクル事業

（間接的効果）街なみ環境整備事業 柳町紺屋町、市民緑地広場整備事業、大手門地区緑地広場整備事業、ＩＴネットワークなどによる情報発信事業、共通駐車券発行事業、海野町商店街駐車場運営事業、空き店舗コミュニティ施設整備・運営事業、AED 設置・運用事業、コミュニケーションボード設置事業、商店街イルミネーション事業、定期野菜市事業、交流サロン整備事業、「軍手ィ」プロジェクト事業等

【目標数値の根拠】

① 過去のトレンド（趨勢）を踏まえた平成 26 年の歩行者通行量
（※１次変数の線形回帰モデルを使用し予測計算） 21,705 人/日

○ 平日（毎年 10 月 15 日（休日の場合は直前の平日））の歩行者通行量調査は平成 19 年度からであるので昭和 55 年度から実施している休日歩行者通行量調査を参考にする。

○ 歩行者通行量（休日）は、昭和 55 年の調査開始からほぼ一貫して減少傾向にあり、昭和 55 年当時、全体で 82,414 人であった歩行者通行量は、調査開始以来年々減少している。駅前再開発が終了した平成 15 年から 16 年にかけて一時的に増加したものの、その後は再び減少し、平成 20 年には 14%の 11,593 人にまで落ち込んでいる。

○ 過去からの傾向が今後も続くとすると平成 26 年までに 700 人／日減少し、21,705 人／日となることが見込まれる。

<現状からの推計>

図31　歩行者通行量の推移(資料：商店街通行量調査)

②大手門地区中心市街地共同住宅整備事業、天神三丁目住宅供給事業及び民間資本による中央三丁目・四丁目共同住宅供給事業（マンション建設）による増加

678 人/日

本事業により整備される住宅への入居者見込みである 690 人のうち、上田駅方面へ通勤・通学する者が世帯あたり 1/3 人とする。

これにより、共同住宅建設に伴う通行量増加は 2.52×1/3　0.76 人。また、それぞれの住宅に戻ると仮定し、以下の表から 678 人／日の増加が見込まれる。

ただし、朝 10 時から午後 7 時の調査時間のため片道のみカウント。

（集合住宅建設に伴う増加）	入居世帯数（見込含む）	一世帯あたり通行数	箇所	調査地点№	増加人数
天神三丁目住宅供給事業	117	0.76 人	1	⑪	89 人
中央四丁目共同住宅供給事業（完売）	49	0.76 人	6	⑪⑨⑦⑤③①	223 人
中央三丁目共同住宅供給事業（完売）	50	0.76 人	5	⑩⑧⑥④②	190 人
大手門地区中心市街地共同住宅整備事業	58	0.76 人	4	⑪⑨⑦⑤	176 人
合　　計					678 人

③天神三丁目土地区画整理事業地区の商業施設設置による増加　1,360 人/日

上田リヴィン（LIVIN.西友）がH21 年 3 月末に閉店したが、上田リヴィンがあった平成 20 年の調査地点⑪「よろづや前」は約 3,400　人の歩行者数があった。

上田リヴィンの店舗面積 8,795 ㎡に対し、天神三丁目土地区画整理事業地区の商業施設　イトーヨーカ堂・アリオ上田は約 20,000 ㎡で約 2 倍の広さ。

単純に約 2 倍の通行量が期待される。3,400 人×2 倍＝6,800 人。

ただし、車での来店者が多いと想定されるため駅からの徒歩による来店者は半数程度と想定する。さらにこのうち 3 割程度は駅反対側（温泉口）から行くと想定。上田駅お城口からは調査地点⑪「よろづや前」を行き帰りに通ると仮定。

6,800 人×1/2×7/10×(１箇所)2 回＝4,760 人

これにより、4,760 人－3,400 人＝1,360 人の通行量増加が見込まれる。

調査地点№⑪

④大手門地区商業等施設整備事業による増加　250 人/日

大手門地区商業等施設は、戦国武将「真田」をテーマにした資料展示、商店街・観光情報発信、喫茶・交流スペース及び物販等からなる歴史・文化・食が楽しめ

る、来街者・居住者を滞留させるための施設を想定しており、真田に惹かれて訪れる者が観光会館（レジ数）入館者、平成 20 年度実績 26,105 人のうち 1/2 は訪れると想定。

来店は主に観光客であり上田駅から調査地点 7 箇所程度を通過すると想定。

26,105 人×1/2÷365 日×7 箇所　250 人/日

調査地点：行き№⑪⑨⑦⑤、帰り№⑥⑧⑩

⑤街なか駐車場整備により観光客及び市街地買物者増による増加　57 人/日

{バス１台（40 人）＋乗用車 30 台（60 人）}

街なか（調査地点 4 箇所程度）を歩くと想定。

100 人×52 週÷365 日×4 箇所　57 人/日　調査地点：行き№②①③④

⑥総合保健センター整備（旧第一中学校跡地）による通行者増加　36 人/日

現在、塩田母子健康センターで行っている「母乳育児相談」（約 3,000 人/年）及び「両親学級」（約1,500 人/年）事業が総合保健センターに移管になることにより、当該事業参加者相当者数が市街地駐車場を利用して総合保健センターまで行くと想定。その際、街なか駐車場から往復で 2 箇所を通過。

（3,000 人/年＋1,500 人/年）÷250 日×2 箇所＝36 人/日　調査地点：行き№⑭⑮

⑦赤ちゃんステーション整備により中心市街地来街者増加　24 人/日

赤ちゃんステーション※利用 6 人/日

※授乳・おむつ交換設備、赤ちゃんと一緒に入れるトイレなどが完備。

ただし、街なか駐車場に停めて往復と想定。

6 人/日×4 箇所＝24 人/日　調査地点：行き№⑬⑮⑭⑫

⑧テナント出店支援制度※活用による出店による来街者増加　147 人/日

5 店舗程度新規開店するものと想定。

来店客数は平日の平均入店者数 7 人（各種店舗業態：商店街聞き取り）。

市街地商店街のうち原町、松尾町、天神には各 1、空店舗の多い海野町には 2 店舗出店と想定。また、通過地点数は原町と海野町は街なか駐車場又は海野町駐車場を使って来店すると仮定し各 4 ヶ所。松尾町と天神は上田駅から来店すると仮定し 7 箇所と 2 箇所を通過。以下の表から 147 人/日の増加が見込まれる。

商店街	回遊の起点	出店数	来店者数	箇所	調査地点№	増加人数
原町	街なか駐車場	1	7 人	4	①②③④	28 人
海野町	海野町駐車場	2	7 人	4	⑫⑬⑭⑮	56 人
松尾町	上田駅	1	7 人	7	⑪⑨⑦⑤⑥⑧⑩	49 人
天神	上田駅	1	7 人	2	⑪往復	14 人
				合計		147 人

※・出店時改修補助 1/3（上限 300 万円）

・商店街の家賃補助に補助 1/2（上限 100 万円、最長 6 箇月）

上記②～⑧の増加要因により 2,552 人の増加を見込む。

トレンド予測の①から 2,552 人増加を見込み、平成 26 年度における歩行者通行量の目標を 24,257 人とする。

調査地点			
第 ①②	原町一丁目	瀬川園	木村陶器店
第 ③④	中央一番街北	カワイ	あぶかつ
第 ⑤⑥	中央一番街南	だいこくや	宮沢鰹節店
第 ⑦⑧	松尾町北	ラブ・ファンファン	藤岡薬局
第 ⑨⑩	松尾町南	飯島商店	武重ビル
第 ⑪	駅お城口広場西	よろづや前	
第 ⑫⑬	海野町西	ポケットパーク	丸陽ビル
第 ⑭⑮	海野町	海野町会館	白井信子美容室

【フォローアップ】

市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る。（域内交流）

：「中心市街地の歩行者通行量」

中心市街地の現況把握のために上田商工会議所において行った通行量調査を今後も毎年 10 月（平日（一日））に実施するとともに事業の進捗状況について毎年度確認し、必要に応じて事業を促進するための措置を講じる。

計画期間の中間年度にあたる平成 24 年度には数値目標の達成状況を検証し、必要に応じて目標達成に向けた改善措置を講じていく。また、計画期間の最終年度終了後に再度検証を行う。

参考数値目標：新生「上田市」の総合的なブランド力を高める（域外交流）
「中心市街地にある上田城跡公園周辺施設利用者数」
【目標数値：参考】

目標設定の理由

①上田市は観光をリーディング産業（他の産業の発展を促す起爆剤）と位置付け、平成 20 年5月に「信州上田観光ビジョン　～旅のミュージアム都市上田の創造～」を策定し、四季を通じ誘客に努めている。

②「観光ブランド力」に関しては、広域的な地域から人を呼び込むという視点から、中心市街地にある「上田城跡公園周辺施設（上田城南櫓、上田市立博物館、観光会館及び池波正太郎真田太平記館）利用者数」が数値目標として考えられる。

③「上田城跡公園周辺施設利用者数」は年度ごとに常にカウントし定期的にフォローアップが可能な指標である。

目標数値設定の考え方

①上田城南櫓、上田市立博物館、池波正太郎真田太平記館及び観光会館との連携による街なか回遊による増加

②千本桜等イベントや中心市街地商店街との連携による池波正太郎真田太平記館入館者増加

具体的な数値目標

（１）目標：「上田城跡公園周辺施設（上田城南櫓、上田市立博物館、池波正太郎真田太平記館及び観光会館）年間利用者数」（4 月～3 月）

平成 20 年度 174,754 人/年	⇨	平成 26 年度 180,000 人/年

+5,246 人

（２）関連事業及び目標数値の根拠

【関連事業】

（直接的効果）街なか駐車場整備事業、観光会館売店運営事業、交流サロン整備事業、まち中観光誘客事業、まちなかレンタサイクル試行事業、上田市立博

物館開館８０周年記念事業、原町一番街商店会幸村まつり事業等

（間接的効果）上田真田まつり事業、公共サイン整備事業、定期野菜市事業、市街地景観整備促進事業等

【目標数値の根拠】

①平成 20 年度　上田城跡公園周辺施設入館者数　174,754 人/年

・市立博物館	55,873 人/年
・上田城南櫓	60,666 人/年
・池波正太郎真田太平記館	32,110 人/年
・観光会館	26,105 人/年
合計	174,754 人/年

（統計資料:「上田市の教育」及び観光会館レジ）

②上田市立博物館及び池波正太郎真田太平記館等との連携、五館共通観覧券利用者の増加　1,037 人/年

「五館共通観覧券（上田市立博物館、上田城南櫓、池波正太郎真田太平記館、山本鼎記念館、信濃国分寺資料館）」は一般 500 円で購入（別々に五施設全て入館すると 800 円）でき利用が徐々に増え、平成 19 年度実績で約 5,100 枚、平成 20 年度実績では約 6,100 枚あり、街なか回遊につながっている。最も五館入場券の売上げが多い上田城跡公園内にある上田市立博物館での販売枚数を見ると、平成 20 年度 3,300 枚で、平成 19 年度 2,800 枚の約 1.17 倍。今後も戦国武将・真田幸村ブームにより、真田関係施設が安く入館できる五館共通券は売り上げ増加が見込まれる。そこで、今後少なくとも平成 20 年度売上げ枚数 6,100 枚の 1.17 倍、7,137 枚の売上げが想定され、7,137 人－6,100 人＝1,037 人増が見込まれる。

★五館共通観覧券:
上田市立博物館、上田城南櫓、池波正太郎真田太平記館、山本鼎記念館、信濃国分寺資料館の五館利用

③「街なか駐車場整備」及び「交流サロン整備」による池波正太郎真田太平記館への入場者増加　3,200 人/年

池波正太郎真田太平記館近くの市有地（旧写真美術館用地）に「街なか駐車場」を整備し、さらに池波正太郎真田太平記館の「交流サロン整備」することにより、街なか観光に、これまで以上の観光バスを誘導できる。

｛観光バス１台（40 人）×2 台×0.8（乗車８割程度）×50 週×2（土日曜日）｝のうち半数を池波正太郎真田太平記館に誘導できると想定し 3,200 人増加が見込まれる。

④地元商店街との連携による池波正太郎真田太平記館入館者増加　450 人/年

平成 21 年 4 月に「上田城千本桜まつり」開催中、池波正太郎真田太平記館のある原町に観光バス臨時駐車場を開設した。その際、地元うえだ原町一番街商店会も「幸村まつり」、「真田市（野菜市）」などの「おもてなしイベント」を行った結果、原町の調査2地点（瀬川園前、木村陶器前）における歩行者通行量は、同年3月に比較し約2倍の通行量があった（上田商工会議所調査）。

千本桜まつりの際の原町の調査2地点（瀬川園前、木村陶器前）の歩行者通行量は、
2,191 人/日（4 月）－1,082 人/日（3 月）　1,000 人/日

このうち、千本桜まつり期間中の土日曜日（6 回）、増加した通行者の1割を入館に結びつけることにより、
1,000 人/日×6 回×0.1×0.75＝450 人増が見込まれる。（ただし、年によって桜の咲く日が前後することによる観光客数への影響を考慮し 0.25 割落として計算）

池波正太郎真田太平記館

⑤まちなかレンタサイクル事業による、上田駅又は上田城跡公園からの池波正太郎真田太平記館への来館者増加（休日）　500 人/年

休日利用者は、「まち中観光」と想定されるので、約半数は池波正太郎真田太平記館に来ると想定。（平日試行結果の平均利用者数 1.5 人を使用）

当面レンタサイクルは 8 台導入し、平均利用者が 1.5 人とする。

年間 52 週のうち冬期間は利用が少ないことを想定し、年間 42 週×2（土日曜日）とする。このうち約半数は池波正太郎真田太平記館へ誘導できると想定

8 台×1.5 人×42 週×2（土日曜日）×1/2　500 人

⑥観光会館：「うえだの四季」写真コーナーの設置による入館者増加　59 人/年

観光会館は上田城跡公園の前にあることから、観光客及び市民に改めて上田の魅力を知ってもらうため「うえだの四季」写真コーナーを設け写真展示を行う。写真は、地元で著名なアマチュアカメラマンの作品をお借りし展示する。当事業による観光客の増加は難しいと思われるが、市内で写真撮影を趣味にしている者が新たに入館してくれることが期待される。

観光会館

平成 19 年度からで市主催する「うえだの四季の写真コンテスト」にも毎年延べ 200 人以上が作品（800 点）を寄せている。

そこでコンテスト入選作品も併せて展示することにより、コンテスト参加者が家族や友人（2 人で）と展示作品や入選者の写真を見に来館し、うち 1/3 はついでに観光会館で買物をしてくれると想定。

ただし、応募者の内訳を見ると年 2～4 回出している方もいる。そこで少なく見積もって、実数は平成 20 年度の実績 265 人に対し 1/3 とする。

265 人×1/3×2 人×1/3＝59 人増を見込む。

	平成 19 年度		平成 20 年度	
	応募作品数（点）	応募者数（人）	応募作品数（点）	応募者数（人）
春の部	399	138	323	113
夏の部	165	55	103	35
秋の部	180	57	244	77
冬の部	206	65	130	40
合　計	950	315	800	265

上記②～⑥の増加要因により 5,246 人/年の増加を見込む。

トレンド予測の①から 5,246 人増加を見込み、平成 26 年度における「中心市街地にある上田城跡公園周辺施設利用者数」の目標を 180,000 人/年とする。

【参考】

1＜池波正太郎真田太平記館の入場者数（年度ごと）＞

年　度	入館者数（人）	備　　考
平成11年度	22,831	市制 80 周年無料開放実施
平成12年度	20,294	8～10 月無休期間設定、初めての通常年実績
平成13年度	21,330	開館 3 周年
平成14年度	21,663	入館者 10 万人突破
平成15年度	23,376	開館 5 周年記念「上野浅草まつり」他開催
平成16年度	21,169	市制 85 周年記念無料開放実施（20 日間、1,193 人）
平成17年度	24,885	池波正太郎絵画展ほか開催
平成18年度	29,786	新生「上田市」発足、台東区記念文庫との姉妹館提携
平成19年度	31,502	大阪城特別展･出張企画展の開催
平成20年度	32,110	開館10周年記念事業特別企画展（2回）、特別講演会（2回）開催

2＜平成 21 年度　池波正太郎真田太平記館事業計画（館内企画）＞

開催回	企画展：タイトル	開催期間
第1回	春の企画展池波正太郎自筆絵画展 「池波正太郎ヨーロッパの風景と人びと」	H21.4.　4（土） ～6.30（火）
第2回	夏の写真展・池波正太郎『剣客商売』番外編 －「ないしょないしょ」の舞台を歩く－	H21.7.9（木） ～ 9.29（火）
第3回	秋の企画展「関ヶ原合戦と真田氏の活躍 －池波正太郎『真田太平記』の背景－」	H21.10.10（土） ～ H22.1.11（月）
第4回	冬の企画展 磯田和一風景画展「池波正太郎が愛した街を歩く」	H22.1.21（木） ～ 2.28（日）
第5回	上田の作家展　－　武舎亮一　「森の詩（うた）」（仮題）	H22.3.4（木） ～ 3.30（火）
開催回	サロントーク：タイトル・内容	日　程
第1回	「関ヶ原合戦と徳川幕府創業神話」 講師：宮本裕次氏（大阪城天守閣主任学芸員）	H21.11.29（日）
第2回	事前学習会「池波正太郎が描いた江戸－本所篇」 講師：鶴松指導員	H21.12.10（月）
第3回	磯田和一氏 「池波正太郎が愛した街を歩く」（仮題）	未定
第4回	未定 講師：鶴松指導員	未定
開催回	文学・歴史に親しむ講座（街と共催）	日　程
第1回	文学散歩「池波正太郎ゆかりの軽井沢」	H21.6.3（水）
第2回	文学散歩「池波正太郎作品の舞台を歩く－関ヶ原・近江－」	H21.11.24(火)25(水)

3　台東区池波記念文庫との姉妹館関係事業

文学散歩　協力：台東区池波記念文庫

開催回	行　先・内　容	日　程
第1回	文学散歩「池波正太郎の描いた江戸－本所篇」	H21.12.16（水）

4　上田市立博物館、上田城南櫓及び上田市観光会館の入場者数の推移　　(単位：人)

	上田市立博物館	上田城南櫓	上田市観光会館
平成　7年度	15,241	45,015	－
平成　8年度	15,590	45,036	－
平成　9年度	19,202	51,890	－
平成10年度	54,821	59,691	28,541
平成11年度	55,114	57,347	20,402
平成12年度	48,839	61,193	17,130
平成13年度	43,704	57,091	17,210

平成１４年度	40,740	55,097	15,856
平成１５年度	41,693	52,219	14,690
平成１６年度	38,103	50,872	21,296
平成１７年度	42,625	51,159	22,273
平成１８年度	50,996	58,514	28,738
平成１９年度	67,435	75,668	38,888
平成２０年度	55,873	60,666	26,105

※有料入館者と無料入館者数の合計人数、観光会館は（POS レジ数）

※参考）H10 年度：長野冬季オリンピック・パラリンピック開催（長野新幹線、上信越自動車道）、

H19 年度：NHK大河ドラマ「風林火山」ブーム（上田は真田氏ゆかりの地）

【フォローアップ】

新生「上田市」の総合的なブランド力を高める（域外交流）

：「中心市街地にある上田城跡公園周辺施設利用者数」

上田城跡公園周辺施設入館者数の現況把握を毎年実施するとともに事業の進捗状況について毎年確認し、必要に応じて事業を促進するための措置を講じる。